

■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 灯編

灯「やんっ……♪ もう、恵ったらどんだけ発情してんの……？」

灯「家に帰るなり即がついてくるとか、いくらなんでも盛りすぎでしょ」

灯「確かに、二人が帰ってくるまで……ん、ちゅっ……一回でも多くシたいって気持ちは、私も一緒だけど……」

灯「だからって……べろっ、玄関でこんな……れろ、ちゅるっ……ん、さすがにヤバくない……？」

灯「もし、お母さんにバレたらって想像したら……ペロ、ちゅふっ……それはそれで、ドキドキしちゃうし……あんっ」

灯「そのドキドキがコーフンになって、セックスも盛り上がりちゃいそうだけ……れろ、ちゅぱっ……」

灯「あ、ヤバい……舌絡めるキスだけで、もう濡れちゃいそう……ん、ちゅぱるっ……れろれろっ……」

灯「ね、やっぱ私の部屋行こ……？ 今日はちょっと、試してみたいプレイがあるの」

灯「私の言いつけは聞くって約束でしょ？ だってあんた、居候だもんね」

//SE ドアを閉める音

//SE 鍵を閉める音（部屋に鍵があるようでしたら）

灯「んーっ、今日もあついねぇ。学校から帰ってくるだけでも汗かいちゃうよねえ」

灯「恵も汗スゴいよ？ ほら、首のところとか、汗が玉になって……れろっ」

灯「ふふっ、分かってたけど、やっぱ汗ってしょっぱいよね」

灯「私もね、恵に負けず劣らず汗びっしょりなんだ……ふう……」

灯「首筋とか、太ももとか……目に見えてるところだけじゃなくて、服の中も汗だくでき」

灯「下着なんて、一日着てたからもうびしょびしょなんだよねえ……すっごい蒸れてるのが自分でも分かっちゃう」

灯「……今、変な想像したでしょ？」

灯 「はい、絶対ウソー！ だって目つきがエロかったもん。あっはは！」

灯 「でも今のリアクション……満更でもないって感じだよねえ」

灯 「……ね、嗅いでみない？」

灯 「なにを、って……決まってるじゃん。私のエッチなニオイ」

灯 「ほら、この前初めて恵と中出しセックスしたとき……お互い汗だくだつたでしょ？」

灯 「そん時の、恵の汗のニオイ……私、意外と嫌いじゃなかつたんだよね」

灯 「だから、恵も私のニオイに興味あるかなーって。ほら、恵って見かけによらず変態でしょ？」

灯 「登下校とか、体育の授業でたっぷり汗かいた女の子のニオイ……今だけ特別に嗅ぎ放題だよ？ しかも無料だよ？」

灯 「……うん、素直でよろしい！ それじゃあ……とうつ」

//SE ベッドに倒れ込む音

灯 「ほら、じっとして……チャックに挟まつても知らないよ？」

//SE 衣擦れの音

灯 「わっ、出てきた出てきた……恵のおちんちん、もうこんなになってるじゃん……♪ 私のニオイが嗅げるからって、興奮してんの？」

灯 「そして思った通り、恵のニオイがスッゴい……脱がした途端むわあって漂ってきた」

灯 「ほらほら、私が脱がしてあげたんだから、そっちも早く脱がせてよお……」

//SE 衣擦れの音

灯 「あっ……ねえねえ、どう……？ シャワーを浴びる前の、蒸れ蒸れおまんこを間近で見た感想は……？」

灯 「エッチな汗のニオイ、しちゃってる……？ 遠慮しないで、いっぱい嗅いでいいんだからね……？」

灯 「女の子の恥ずかしいところのニオイを、好きなだけ嗅げるチャンスなんて……もう、一生ないかもしれないんだから」

灯「ああっ……♪ ん……ふふつ、おまんこで恵の鼻息感じちゃってる……
私のいやらしいニオイ、思いっきり吸い込まれてる……」

灯「じゃあ、こっちも……ん、すんすんっ……はあっ……」

灯「やっぱりこのニオイ、クセになっちゃうかも……♪ んん……すんすん

灯「汗のニオイだけじゃなくて、スッゴく濃厚なオスの香りがする……」

灯「このニオイを鼻で吸い込むと、目の前がクラクラってして……おちんちんって言葉で、頭がいっぱいになっちゃうんだよねえ……♪」

灯「うん、私好きだよ……おちんちんのニオイ……大好きい……」

灯「ほら、恵ももっと嗅いでよお……私のおまんこが寂しがってるよ……？」

灯「それとも、恵は私のニオイがあんまり好きじゃなかった……？」

灯「……うわっ、そんな必死にフォローされると、それはそれで若干引くんですけどー？」

灯「なーんて、冗談冗談。ほら、機嫌直してよお。おまんこ開いて見せてあげるからあ……♪」

灯「ほーら、奥までよく見えるでしょ……？ おちんちんのニオイ嗅いだだけで、もうこんなに濡れちゃってる……」

灯「あっ……♪ やっとその気になってくれたあ……♪ 恵の鼻が、私のおまんこにぴったりフィットしちゃってる……♪」

灯「ん、んんっ……なんか、モゾモゾするっ……これ、鼻の頭がおまんこに擦れて……ちょっと気持ちいいかも……」

灯「ひやっ……！ ちょ、ちょっと恵？ そこはおまんこじゃなくて、毛のところ……」

灯「え……？ こっちの方がニオイが濃い？ そ、そななんだ……あらためて言われると、さすがに恥ずいかも……」

灯「ん、んっ……くすぐったい……恵の鼻が、もそもそ動いて……エッチなところのニオイ、思いっきり吸い込まれてる……」

灯「わっ……おちんちんが何もしてないのに、バッキバキになってるんだけど……」

灯「これって、私と一緒に？ エッチなところのニオイを思いっきり嗅いで、興奮したってこと……？」

灯「へえ……やっぱり恵って、変態の素質があるじゃん」

灯「いいよ、もっと嗅いで……？ お互いにエッチなニオイ嗅ぎあいっこしながら、気持ちいいコトしよ……？」

灯「ん、んんっ……すんすん……れろっ、ちゅるるっ……ちゅふ、んんっ……」

灯「おちんちんのニオイ、好きい……おちんちんもこのニオイも、どっちも好きっ……」

灯「ああ……やっぱ無理かも……こんな至近距離で勃起したおちんちん見せつけられたら、ニオイだけじゃ我慢できないよお……」

灯「はあ……ん、むつ……ちゅるっ……ぺろんっ」

灯「ん、れろっ……ぺろぺろっ……たくましいちんちん……先っぽまで、全部味わいたいから……れろっ、ちゅるっ……」

灯「ん、ふふっ……気持ちいい？ 恵の弱いところは、大体分かってるよ……？ ぺろっ、れろっ……」

灯「この、裏筋のとことか……出っ張ってるカリのところとか、舌でなぞられるの好きでしょ？」

灯「あと、こうやって……れろれろんっ、べろっ、ちゅふるっ……おちんちんの頭を、舌で撫で撫でされるのも……ふふっ」

灯「え……？ いつの間に把握したんだ？ って……？」

灯「そんなの、何回もセックスしてる間に決まってるじゃん……ん、ちゅるっ……」

灯「だって私たち……れろ、ちゅぱっ……初めてシた日から、ほぼ毎日セックスしてるんだよ？」

灯「学校でペン握ってる時間と同じくらい、恵のおちんちん握ったり、しゃぶったりしてるんだから……」

灯「恵のどこが敏感なのかなんて、身体に刻み込まれるレベルで覚えちゃってるし。あはっ……♪」

灯 「あっ、先っぽから我慢汁出てきた……これ、私の舌でおちんちんに塗つてあげるね……」

灯 「れろっ、ん、ちゅるるるっ……べろんっ、れろっ、ちゅぷっ……ちゅっちゅ、れろっ、ペろっ……んちゅるるっ……」

灯 「んっ、れろんっ……はあ、おちんちんテカテカしてる……先っぽも、ツルツルになって——」

灯 「ひやあつ……！ あつ、ああつ……ん、恵も、舐めてくれるの……？」

灯 「いいよ、舐め合いっこしょ……？ ん、ちゅる、れろれろっ……」

灯 「ん、ふああつ……！ あつ、そこっ……いいっ……ペろっ、ちゅるるっ……ん、気持ちいいっ……♪」

灯 「おまんこの、周りのところ……丁寧に舐められると、中の方がキュンキュンってしちゃう……」

灯 「うん……おまんこがね、期待しちゃうの……このおちんちんが欲しくなって、身体の奥が疼いちゃう……」

灯 「恵も、そういうことあるでしょ……？ おまんこにハメたくて仕方がない、って気持ちになること……」

灯 「そういう気持ちをお互いに高め合った状態でセックスしたら……絶対、ヤバいくらい気持ちいいよね……♪」

灯 「ひやあ、んんっ……！ もう、おまんこにがっつきすぎい……♪」

灯 「そんな必死に舐められたら、ん、はあっ……♪ 私も、本気になっちゃうじゃんっ……ん、ちゅるるるっ」

灯 「はむうつ……！ ん、じゅるるっ……！ じゅつ、ぶちゅつ……」

灯 「じゅぷっ、くぷっ、ちゅるるるっ……ん、ふむうつ……ん、んんっ……！」

灯 「んっ、ぶはあつ……！ はっ、はあ……はむっ！」

灯 「んふうつ……ん、んじゅつ、じゅぷるつ、くぷつくぶつ……ちゅつ、ずぞぞつ……！」

灯 「ぶはっ……！ ん、ふふっ……♪ おちんちんビクンビクンしてる……恵ってば、必死に我慢しちゃって……カワイイんだー」

灯「ひやあっ！？ あっ、おまんこそんなに広げちゃ……ん、んんっ、あああっ！？」

灯「やつ、ああっ……おまんこ思いっきり舐められてるっ……ピチャピチャいやらしい音鳴らされて、舐め回されてるっ……」

灯「んうううっ……！ それ、吸われるの気持ちいいっ……！ おまんこゾクゾクして、腰がガクガクってなっちゃううっ……！」

灯「ね、もっとシテっ……？ 私もおちんちん気持ち良くてあげるからあ
っ……ん、んむうっ……！」

灯「んじゅるつ、ちゅつ、じゅふぶつ……！ くぶつ、ちゅぶつ、んむううううううううつ……！」

灯「じゅぞぞつ！ すちゅるつ、じゅるるつ……！ ん、むうつ……！
ん、んじゅつ、ちゅふちゅふつ……！」

灯「んっ、ふはあっ……！ はあっ、恵のおちんちん、口の中でパンパンになってるうつ……出るよね？ 出ちゃうよねっ……？」

灯「いいよっ……ん、ちゅぷっ……！ 出していいよっ……このまま、口の中にどびゅどびゅってしちゃお……？」

灯「私のお口をおまんこだと思って、思いっきり中出しするのっ……絶対気持ちいいよっ……？ だからっ……！」

灯「んむうつ！ んんつ、じゅふつ、ちゅるるつ！ じゅふつ、ぐふつ、ちゅるるつ……ん、んんつ……！」

灯「んじゅるつ、じゅふつ、ぐふぐふうつ……ぞぞつ！ んじゅるるる
つ！ ジゅふつ、じゅふふふふつ——」

//射精

「んちゅるるるう……ちゅう、ん、う……こ、んこ……！」

「ふはめつ……！ んつ、こへんつ……よつ、はめ……よつ……ん、はめつ……」

灯 「んあっ……はあ、はっ……スゴっ……濃いのが、喉に絡まって……けほっ、けほっ……！ ん、んくっ……こくんっ……」

灯 「もう、恵ってばあ……はっ、はあ……相変わらず、濃厚すぎい……毎日してるので、なんでこんなに濃いわけ……？」

灯 「ひょっとして、私のこと本気で孕ませたくて、ここで毎日濃いの作ってるとか……？ ふふっ、なーんてね……♪」

灯 「はあ……私も軽くイッちゃった。顔にかかっちゃったかな？ だとしたらごめんね……？」

灯 「エッチなニオイ嗅ぎながら、お互いに大事なところ舐め合うの……思つてたより、ずっと気持ち良かった……」

灯 「でも……まだ全然、満足できてないよね？」

灯 「それどころか、今のがウォーミングアップって感じでしょ？ だって、恵のおちんちんまだ全然元気だし」

灯 「ねえ、見て……？ あたしのおまんこも、奥の方までびしょ濡れ……」

灯 「ビンビンになってるそれを入れて欲しくて、すっごい疼いちゃってる……分かるでしょ……？」

灯 「あはっ……私のおまんこ奥までのぞき込んだだけで、今ビクンってした一」

灯 「恵のおちんちんって正直者だよね。だから好きだよ」

灯 「うん、まだ大丈夫……鼓もお母さんも、まだ帰ってこないと思うから……」

灯 「だから、そのビンビンに盛っちゃってるおちんちんでえ……」

灯 「私のびしょ濡れおまんこ……いいっぱい、パコパコしちゃお？」